



# 学校現場から 高校入試から感じること

高教組委員長

米満 敏孝

2月7日に前期入学選抜試験が実施された。高校の教員にとつて、ミスがないようにと緊張の一日である。今年は英語の採点が長引き、解放されたのは午後7時30分であった。さらに遅かった学校もあったようだ。理科の問題で、「水蒸気」を含む文章で答える設問があり、問題文中にも「蒸」という漢字が使われているにもかかわらず、草冠の下の部分が「子」であったり、「フ」の部分が「ノ」になっていたものが多くあった。理科では正解ならば平仮名でも○であるので、理科だから漢字が違っても良いのではないかとの意見も聞くが、入試問題なのである。他にも、問題文には「メスシリンドラー」と書いてあるのに、解答には「試験管」と書いたり、「イ」字が「T」、小数点が白抜中

点と。我々は、定期試験以上にミスがないように採点する。「学力」以前の問題である。受験生にも緊張感をもって臨んでもらいたい。

## 第10回南炎忌のご案内

～講演と懇談の夕べ～

日時 3月9日(土) 午後3時  
 場所 高知城ホール  
 講演 平野 厚哉氏(元山原健二郎秘書)  
 会費 5000円

## 大滝山から土岐山の縦走

すばらしい展望

井垣 政利

1月6日“山の会”と高退協共催の「恒例新春初歩き」が行われました。コースは、日高村の里山、大滝山から土岐山への“縦走”。250mたらずの低山ながら忍者日下茂兵衛の伝説が残り、猿田の鍾乳

洞などもある神秘的な里である。おおかばな駅に集合した21人、10時に出発。駅の西に広がる県下最大の内陸型湿地を渡る。薄っすらと氷の張る水面上では小鳥が遊び、その向こうでは、鴨の群れが羽ばた

いう標識がある。それに従い進むと“難所”の岩場があり、これを登り終えると大滝山頂上である。頂上の展望はすばらしい。北には雪をかぶった石鎚、東黒森、瓶ヶ森が遠望でき、南には、鉄塔の林立する虚空蔵山、そのむこうに太平洋が望める。小休止のあと、別ルートで日高村運動公園まで下り昼食。後、すぐ目の前にある土岐山の山道にはいる鳥居をくぐると、あとは一直線の急登である。これはかなりきつい。里山歩きというよりは登

山である。あえぐこと40分。山頂にたどりつく。小さな神社があるだけで、眺望はきかない。下山にかかる。下りのコースは、道がはつきりしない。尾根筋を東へ東へと下る。なかなか風情のある楽しい山歩きとなった。30分ほど下ると突然鉄塔が現れる。鉄塔建設用に整備されたと思われる舗装道を下ると目的地の日高中学校の裏手に出る。約束通り「かんぼの宿」の送迎バスと3時に合流。そのまま大宴会へとなだれ込んだ。なかなかの里山歩きでした。

## 県出版文化賞を受賞 山下さんの近著「核の海の証言」

岡林 登志郎

山下正寿さんの近著「核の海の証言―ビキニ事件は終わらない」が第57回高知県出版文化賞を受賞し、その授賞式が2月23日文教会館で行われました。

能被災の問題、特にビキニ被災の調査活動を続けているが、「福島原発事故による放射能被災については、ビキニの被災者の健康調査が重要な指標になる」と訴える。

「応募作品27点の選考の結果5点と特別賞として1点が選ばれた。レベルの高い選考だった」との選考報告があった。

3月末には、福島の高校生を幡多に招待し、幡多高校生ゼミとの交流を準備するなど、これからも活動を続けていくという。

「核の海の証言―  
 ビキニ事件は終わらない」  
 (発行：新日本出版、  
 定価1890円(税込込み)  
 お近くの書店、高教組書記  
 局で、是非お求め下さい。

## 高退協スキー研修 蔵王温泉スキー場



新春初歩き 土岐山の山頂

きを繰り返している。その昔、行李の材料になる柳が植えられていたという。のんびりと風景を楽しみながら、九頭の集落につく。この集落にある護国寺から山道にはいる。最初は、落葉が足にやさしい道であるが、途中から、あまり里人も利用しないのである。荒れたゴツゴツした石道を倒木をはねのけながら進むと峠に出る。国家安泰を願って建てられた碑がある。山頂まで300mと

「核の海の証言―ビキニ事件は終わらない」は、「足下から平和を考えよう」と、幡多高校生ゼミナールの顧問・高橋生達の20数年間取り組んできた調査活動の集大成とともに現在も続けている活動のまとめ。山下さんは、「福島の原発事故によって放射能の被災という現実に向き合った時、広島・長崎・ビキニそして福島。どうして福もこれまで取り組んできたことをまとめなくてはいけなかった」という。山下さんは退職してから



蔵王スキー場

# 遍路道 添蚯蚓（そえみみず） 坂の道 山行 山口享男

教職員山の会の2月例会として、2月10日（日）に実施しました。この遍路道は宇佐の36番青龍寺から窪川の37番岩本寺の間にあり、お遍路泣かせの峠道で知られています。本蚯蚓・添蚯蚓・大坂谷の3コースがありますが、特に添蚯蚓坂は最短路として、中世の昔から使われていたようです。8時30分土佐PA集合し、3台の車に分乗。8時50分土佐久礼八幡宮駐車場に着きました。コース等の説明の後、9時5分久礼八幡宮から歩きはじめました。北に進み、長沢川沿いの車道を西に進みます。のどかな田園風景の中に、津波被害を避けてか新築家屋が目立ちます。「四国遍路道」の標識を過ぎると、開通したばかりの高速道が前方に見られ、まもなく添蚯蚓坂の休憩所に着きました。ここが登山口です。9時50分に出発。登山口から少し登ると、先ほどの高速道に出合いこれをくぐって長い階段が続きます。階段

が終わると、この坂の名の由来のように「ミミズがはうようにくねくね曲がった坂道」が続きました。道は良く整備が終ると、この坂の名の由来のように「ミミズがはうようにくねくね曲がった坂道」が続きました。道は良く整備



添蚯蚓坂の登山口 お遍路休憩所

され、ところどころ石畳等も残り熊野古道が連想されますが、ここは明るい照葉樹林帯です。11時17分最高点の庵峠に着きました。昔は庵寺があつたと伝えられています。数個の石碑が残っていますが、少し先の眺望絶景のベンチで休憩。開通したばかりの高速道の向こうに久礼湾の双名島などが見られ参加者全員満足でした。11時30分出発。緩やかな杉と桧の植林帯を下り、12時10分七子峠に着きました。マラソン大会の中継点か珍しく賑わっていました。明るい陽射しの中、弘法大師の御堂の上の広場で昼食。13時、七子峠発。ここからは「四国の道」を大坂谷川に下ります。この道も遍路道であり標識なども良く整備されています。タイワンカエデや竹林の急便斜を30分ほど下り、大坂谷川コースのお遍路休憩所に着きました。10分ほど歩

くと舗装された車道となりました。所々に竹細工用黒竹の竹林もあり、谷川の水も澄んでいますが、この車道が延々と長く感じられました。14時50分ようやく大坂谷休憩所に着きました。ここは桜の名所で花見の頃に来てみたいと思えました。15時20分出発点の久礼八幡宮駐車場に着き、大正市場を散策後16時に解散しました。天候に恵まれ良い山行だったと思います。

## 「哲学的基礎づけ」の大切さを痛感した人

横田 慧

二〇一一年に、「入門講座・『資本論』を学ぶ人のために」を著して、ブームを起こした平野喜一郎さんが、まだ三十歳くらいで、高知短大で教鞭をとっていたころ、雑誌『経済』に「レーニン『哲学ノート』」という研究論文を発表されました。ヘーゲルの「『論理学』摘要」に焦点を絞った研究でしたが、『哲学ノート』の急所を射たものでした。この論文の付記に、「多忙で時間のない読者に『哲学ノート』を携帯することをおすすめする」と書いてありました。私はそれに心から同意しました。しかし、『哲学ノート』の文庫本が、品切れとなつたいまでは、「携帯」もかなわなくなりました。

### 飲水思源

レーニンは、この『哲学ノート』をロシア革命前の三年間につくり、弁証法的な思考力をきたえ、『帝国主義論』を著しました。革命後には、自然科学も社会科学も哲学的基礎づけが不可欠であると強調し、ヘーゲル同好会をつくらうと呼びかけました。

私たちのあいだでよく「原則的には絶対反対だが、条件を見て柔軟にあたろう」などと言いますが、常識的にはこれでもいいでしょう。しかし、『哲学ノート』には、「全面的、普遍的柔軟性、対立物の同一性にまで達する柔軟性」とあり、つづけて、「柔軟性を主観的に適用すると、折衷主義、詭弁となる」と注意して

います。私は、労働運動、教育活動のなかで、この「対立の同一性にまで達する柔軟性」の句に随分助けられました。

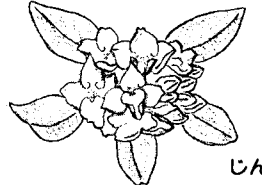
また、「法則は狭くて、不完全で、近似的なものである」というメモ書きがあるかと思えば、別の頁に「具体的なものから抽象的なものへの道すじは、真理に近づくのであり、より深く、より正確に、より完全に反映する」とあります。前の文は、法則（理論）を知ったからといって、事実を調べもせず、理論を、いわば「型紙」にして事実を裁断するようなことはするなという戒めであり、後の文は、事実を山ほど積んでも、真理には遠く、抽象化（法則の認識）ができれば無であると言っているのです。

ヘーゲルの「理念篇」についてのノートに入ると、レーニン流の「読み方」が並べ書きしてあって、これがとても参考になります。たとえば、ヘーゲルが「理念は単純な真理、普遍的なものとしての客観性との同一性である。・・・それ[理念]は、概念の主観性と客観性との分離をなくそうとする衝動である」と書いてあるところを、レーニンは「理念（人間の認識と読め）は、概念と客観性との合致である。主観性は、主観と客観の分離をなくそうとする衝動である」と書き替えています。この解釈は、私たちの変革の活動にとって、基本姿勢の第一となります。

もちろん、このように言うからといって、レーニンの『哲学ノート』からどこかを切りとって、実践に押しつけるなどは論外です。「基礎づけ」と言っても、「導きの糸」以上ではありません。それにしても「宝の山」です！

**第84回**  
**メーデーのご案内**

とき 5月1日（水）午前9時  
ところ 高知中央公園



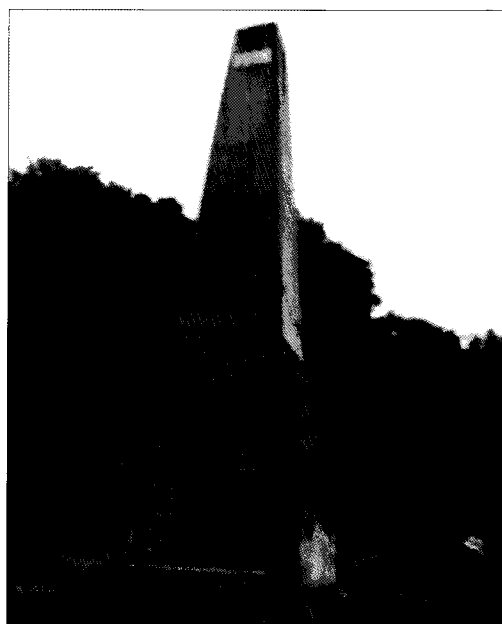
じんちょうげ



# ボランティア活動に参加して

## 復旧復興支援が一刻も早く進められる政治の実現をめざして

3回に分けて連載  
します。第3回



松川の塔

橋元 陽一

策から命を最優先する社会・文化・環境づくり政策に大本から切り替えていくことの重要性を学ぶ機会となりました。

小高町には1200人が居て、160名が犠牲になった。今、住民の皆さんは南相馬市内に40%、県内に30%、県外に30%の方々が避難しています。議員は「市内に戻ってくる住民は高齢者の方が多く、若い人は帰って来ていない。小高区の小学生も25%しか戻ってきていない。」と語られます。議員さんの息子さん家族4人で愛媛県に避難され、農業をしながら安全なコメ、農産物を2年間、福島へ届けると頑張っています。

乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。…」と、謳われています。原発の再稼働など、いまでもありません。憲法を生かして被災地の視点で、東北震災、福島原発事故の復旧復興支援が一刻も早く進められる政治の実現をめざす取り組みに関わり続けていく決意を新たに、片道1200kmの帰路につきました。

議員さんの家は警戒区域10km圏の所でみそ工場と農家民宿を営まれています。自分の所の復旧作業は後回しにして、連日住民の支援活動に奔走されています。南相馬市の20kmに設置されたボランティアセンターを拠点にして、救援活動が継続されています。救済活動が継続されています。救済活動が継続されています。救済活動が継続されています。

避難生活で命をなくされる方が続く中、晩発性被曝の症状が出てくるのはこれからです。国民の命をこれ以上危険に曝さないためにも、安全な再生可能な自然エネルギーに切り替えていく政策、食の安全を守る食料自給体制を保障していく農林水産政策、そして何よりも経済効率優先政



あかつきの抄⑥

小澤 幸泉

住み慣れた家に未練は残さない

あと五年走って百歳まで生きる

やさしさに紅葉を添えた妻の膳

泣きながら遠い日記を読み返す

手作りのネット帽子を

またかぶる

### 短歌

高退協ニュース

山本晶子

ずっしりと重きファイルの「高退協ニュース」十七年の中味がつまる

書く人とパソコン打つひと校正係り苦勞の末にニュースはできる

悪政に立ち向かうあり博識にあふるるもあり元気いたたく

演歌と短歌

神原忠彦

干し柿を亡妻の口となり食ぶ時し写真では笑まむ「おいしです」と

「演歌の花道」視聴で思ふ山折説「うらみ節」こそ短歌に欲しと

(山折哲雄「歌の精神史」所収)

「短歌的抒情」の否定と救済)

また観ても面白くして見応へあり「三丁目の夕日」を夜更けまで起く

(二月十五日、TV放映「ALWAYS 三丁目の夕日」続々篇)

高退協初歩き

叶岡淑子

冬晴れの大滝山へ初歩き 茂兵衛の里は謎めき険し

(江戸中期の忍者・日下兵衛の伝説の里山、奇岩怪石が多い)

それぞれの四十年を語りあう教え子と今日お茶飲みながら

病夫連れ実母の介護に帰省中のTさんまもなく還暦という

### 俳句

12月15日 土曜日

高知城周辺

合田 青幹

小夜時雨名残り止めし石畳  
浮き立たせぬしは即ち冬紅葉

吉本 伸秋

一切を放下の冬木空を刺す

しぐるるや多聞櫓の矢狭間堀

小笠原さちを

石垣に石樋刺さる冬の城

おほわた大綿のふつと消えたり築地堀

1月19日 土曜日

五台山・牧野植物園

吉本 伸秋

日向の香深々籠る枯葎  
寒梅の一輪に澄む空深し

小笠原さちを

日の射して陰の形に薄氷  
からりと枯葉の乾く寒日和



2012年度 教科別教研 数学部会  
高退協 土居康男さんのレポート発表